ふれあい新聞

春　号

「今年もきれいな梅の花が咲きました」

発行日　令和５年４月１日　　第89号
発　行　社会福祉法人 瑞穂会
ふれあい新聞編集部
本　部　〒444－0936
岡崎市上佐々木町字大官49番地
TEL　(0564) 34－3666
FAX　(0564) 34－2347

令和5年度に向けて

社会福祉法人　瑞穂会
特別養護老人ホーム　やはぎ苑
理事長兼施設長　手嶋　寛人

新年度を迎えるたびに、必ず事業計画を立てます。

その事業計画を基に当初予算を立て、法人の進む方向性を明確にして、職員全員が一丸となって頑張っていこうとするわけですが、ここ3年新型コロナの影響をまともに受け、目標を達成することができませんでした。特にやはぎ苑では、全国的にも感染拡大していた令和4年12月から令和5年1月にかけてクラスターを発生させてしまい、入居者様やご家族様に大変なご心配とご迷惑をおかけして誠に申し訳ありませんでした。

各事業所でコロナ感染が拡大したことにより、昨年に続き特養での新規入所の一時中止や、デイサービスにおいては事業の一時休業、ショートステイでもご利用者の受け入れ見合わせ等、どの事業所も利用率を大きく下げ、経営面でも大変厳しい年となりました。

さらに令和4年度は、水道光熱の値上がりをはじめとして、給食材料の高騰や介護用品の高騰等、ありとあらゆるものが値上がりしたことも、経営を圧迫させた要因となりました。

令和5年、重症化率を抑えつつも感染対策が大きく緩和され、政府は3月13日からマスクの着用を個人の判断に委ねる事を基本とし、5月8日からは、現在の「2類相当」からインフルエンザと同等の「5類」に引き下げる方針を固め、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」を見据えた経済活動の正常化へと舵を取り始めました。

しかしながら、高齢者施設においては、重症化リスクが高いということで、勤務中の従業員のマスクの着用が推奨されていることから、これからも状況に合わせて細心の注意を払いながら、今まで通り感染対策をしっかりとっていこうと思います。施設に起こしになる時にはマスクの着用を今後もお願い致します。

そして、瑞穂会の令和5年度の事業計画は、昨年度に引き続き

(1)　感染症や災害への対応力と強化
(2)　人材の確保と育成
(3)　財務基盤の強化
(4)　科学的介護の取り組みの推進

を事業目標に掲げ、介護業界を取り巻く環境はますます深刻化していますが、現状を冷静に読み解き、新しい世の中に繋がる「次の一手」を考え、今年「大河ドラマ」で注目されている徳川家康の「不自由を常と思えば不足なし」という言葉を新型コロナの影響で世の中が大きく変わろうとしている現在の状況に当てはめながら、現在おかれている状況が当たり前と思い、コロナ前に戻る事を前提として考えるのではなく、「今の状況でできる事は何か」を考え、状況に応じて気持ちを切り替えることが重要であるととらえて、令和5年度は前を向いて全力で取り組んでまいります。

令和5年度を迎えて

『くわがい』が大切にしている介護

特別養護老人ホーム　くわがい
施設長　藤城　みさき

当施設は今年6月で、開所20年目という節目の年を迎えます。厚生労働省がここ数年、介護現場におけるICT化を推奨しており、ICT機器・ロボットの導入などが強化されていく中、ロボットでは対応できない介護があります。そして、そうした時代においても、介護の質をどのように高めていくべきかが、今後の課題であります。

当施設が大切にしているケアの一つとして、『看取りケア』があります。昨年度は、7名の特養入居者様を看取らせていただきました。当施設における『看取りケア』の考え方は、看取りケア対応指針の中に説明させていただいております。『看取りケア』とは無理な延命を行わずに自然に任せ、最期まで人間らしく暮らしたいという入居者様に対して、医療に頼ることなく私たちにできる精一杯のケアを提供させていただくことです。

看取りは日々の積み重ねから見えるご本人らしさを大切にすることから始まるため、看取り期になってからの対応ではなく、入所された時から、日々のケアからくみ取れるご本人の思いに寄り添っていくことが大切です。職員が入居者様、お一人おひとりのケアに関わらせて頂く度に、『看取りケア』の技術の理解を深めるだけでなく、実際、看取りに関わらせていただいた職員の介護観や死生観をも変えてしまうほど大切なケアなのです。

年明けから、新型コロナウイルス感染症の第8波が猛烈な勢いで拡大しましたが、ようやく、ゆっくりと終息の気配を見せています。ご面会を心待ちにされてみえる入居者、利用者、ご家族の皆様にはご迷惑、ご不便をお掛けしていることを心よりお詫び申し上げます。現在は制限下での直接面会を再開しておりますが、コロナの発生状況を見ながら、適切な対応に心掛けていけるよう努めていきます。

これからも職員一同、誠心誠意取り組んでまいりますので、今年度も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年度新人職員紹介

message

①氏　名　ボハラ・テク・クマリ
②配属先　やはぎ苑
③趣　味　ギターを弾く事
④抱　負　笑顔で、優しく介護をしていきたいです。
利用者の方が、自分でできる事が増えるように介護をしていきたいです。

message

①氏　名　グエン・トゥ・チャン
②配属先　やはぎ苑
③趣　味　読書と絵を描く事や歌を歌
④抱　負　利用者の方に気持ちをあわせながら、安全に介護ができるように頑張ります。

令和５年４月１日
やはぎ苑　新人職員　辞令交付式

message

① 氏　名　グエン・ティ・ハ
② 配属先　第三やはぎ苑
③ 趣　味　料理
④ 抱　負　介護の経験がないので、経験を積んでいきたいと思います。
利用者の方に安全安心な生活を提供したいです。

やはぎ苑

やはぎ苑ヘルパーステーション

やはぎ苑ヘルパーステーションでは、職員３名・登録ヘルパー6名の総勢９名で活動しています。

ホームヘルパー（訪問介護員）は、ご利用者のご自宅に訪問し、身体介護サービス（食事や入浴・排泄・衣服の着脱・移動などの支援）や家事援助サービス（調理・洗濯・掃除・買い物などの援助や代行）を提供しています。

ご利用者やご家族への精神的ケアを行うほか、ご家族に技術的な介助方法を伝えるなどの相談援助も大切な仕事となっています。

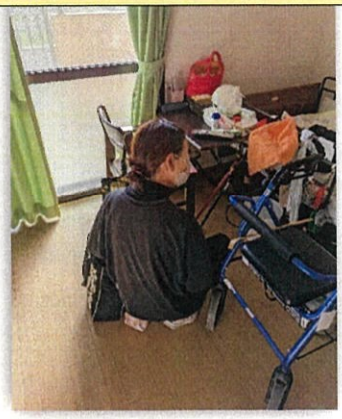
現在、一緒に働いてくださる方を募集しています。是非、私たちと一緒に働いてみませんか？

ヘルパーの職員さん

排泄介助

トイレ掃

お部屋の掃除



利用者さんとのコミュニケーショ

かみさの家日記

グループホーム
かみさの家

1月

新年会を開催しました。
各ユニット、ビンゴ大会をして景品を貰ったり、お茶をたてて和菓子と一緒に頂いたり、それぞれ楽しまれていました。

2月

今年も節分恒例の豆まきをしました。「鬼は～外。福は～内」

3月

入所者さんと共に、お饅頭や団子を作り、ひな人形を見ながら皆で頂きました。

令和4年度の取り組み

特別養護老人ホーム　くわがい

介護主任　岡田　進太郎

特別養護老人ホームくわがいでは、生活をされる全ての入居者様、利用者様の負担を無くし、安心していただけるようなサポートを心がけています。スタッフ一人ひとりが介護のプロとして、技術・知識をより高めていくために、昨年度は『介護技術の向上』、『認知症への理解』の2つを取り組みの柱として、この一年間を取り組んできました。介護の現場では、その時その時で状況が変わることもあるため、常に適切な対応が求められます。介護技術を向上させるために、各種委員会を中心に複数名を対象に学ぶ機会を設けたり、時には個人的に専門職からの直接指導を受けたりと、スキルアップを図ってきました。その結果、適切な介護の提供であったり、各々での見直しに繋げることができました。また、高齢化が進む現代において、『認知症』についての正しい知識を得ていくことは、施設でのサービスを提供していく私たちには欠かすことのできない重要なものになります。各ユニットで、月に1度は認知症の方への関わり方について振り返る機会を設けたり、今年度については認知症の勉強会を開催し、認知症への理解を深める取り組みを行いました。実際の生活の場において、スタッフが悩み、考え、対応を見つけていくというサイクルもできつつあります。

昨年度、『介護技術の向上』、『認知症への理解』という目標を掲げて取り組んだことで、負担のかからない生活の支援や、落ち着ける生活環境の確立といった成果も見られておりますが、時間の経過に伴うスタッフの意識の薄れから、対応の不備という課題も浮き彫りになってきました。

昨年度の反省を活かしながら、今年度も『介護技術の向上』、『認知症への理解』を目標として、入居者様、利用者様には、より過ごしやすい生活の場となるよう、スタッフ一同励んでいこうと思います。

地域密着型小規模特別養護老人ホーム

第二やはぎ苑

小野田さん作

「今号の俳句」

いくつまで
数へつづくや
紙風船

数えながら、紙風船を打ち上げ続けた昔の懐かしい思い出を詠まれた句です。

三ツ口さん作

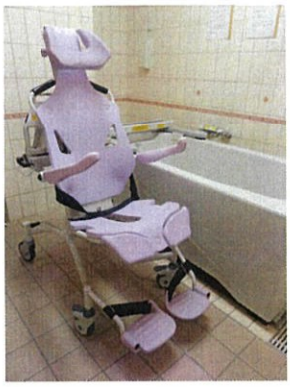
「今号の短歌」

陽光のほろほろまろぶ三月の三寒四温の行きつもどりつ

あたたかな陽の光を浴びながら、少しずつ春に近づいていく様子を詠んでくださいました。

今年も立派な御殿飾りを皆さんにご覧いただきました。

リフト浴



一月十六日にリフト浴を導入しました。電動で浴槽の出入りができ、ご利用者さんからもご好評いただいています。

上手に活用し、施設の運営方針「湯ったり、湯っくりの入浴ケア」に引き続き努めていきます。

運営推進会議

令和四年度は、六回の会議のうち、対面での開催は四回のみでしたが、地域の皆様にご参加いただくことができました。

令和五年度も会議を通して、地域の皆様のお力をお借りし、より良い介護サービスの提供を目指していきます。

小規模多機能　やはぎ苑

日頃より小規模多機能やはぎ苑の活動にご理解、ご協力頂きありがとうございます。
多機能では昨年度も日中活動としていろいろな行事や活動に取り組み、参加していただきました。 なるべく季節を感じていただけるような行事や職員と協力しての活動を通して楽しく過ごせていただけたらと思っております。

テラスでの桜見昼食会

誕生日ケーキ作り

昨年からの畑の作物栽培

午後のレクリェーション

案山子制作

昼食会の餃子作り

忘年会の料理作り

季節の貼り絵

苑周辺のお散歩

先日は、苑の近くの桜を見にドライブにも出かけました。今年度は中止していた散策行事もできたらと考えております。

小規模特別養護老人ホーム

第三やはぎ苑

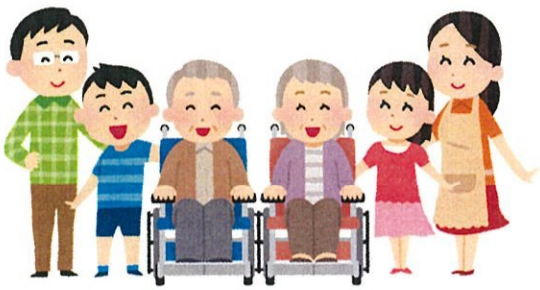
先日職員が土筆を摘んで来てくれたので、入居者の皆さんにはかまを取ってもらい、ユニットのキッチンで卵とじを作って皆様に食べて頂きました。
「懐かしいね」「昔よく作ったよ」「おいしいね」と言って、大変喜んで頂けました。
春の訪れを感じつつ昔を懐かしむ、心がほっこり温かくなるひと時を感じました。

今年は暖かくなるのが早く、桜の開花も例年より早く訪れました。
月日が経つのは早いもので、第三やはぎ苑が開設して５月には７年目に入ろうとしております。
施設の入り口で咲いている桜も満開になり、開設当初から自分と一緒に育って来たと思うと感慨深く感じます。

開設当初から一緒に頑張ってくれている職員、また新たに配属された職員。
皆それぞれに個性を持ち、それでも第三やはぎ苑に入居されている方達が、穏やかに暮らし笑顔で過ごせるように、日々努力を重ねてくれています。
ご家族様達からの温かいお言葉や入居者の方々の笑顔、優しく対応してくれる職員達に感謝の思いを感じております。

コロナ禍の中で誰もが大変な思いをして来ましたが、明るい未来を信じ、希望を持って日々皆と共に過ごして行きたいと思っております。

コロナ禍の中で面会の制限やイベント等の自粛により、ユニット内での生活を余儀なくされている入居者の方々の為に、生活リハビリを兼ねての色々なゲームを考えてくれました。
多人数で出来る物や一人でも出来る物等、皆さん楽しんでおこなって見えます。
ユニットから聞こえる皆の笑い声に、とても癒される思いを感じます。
ご家族の方々も自由に施設へ来られるようになったら、一緒にゲームをしたりおやつを作って一緒に食べたり、季節の行事に参加をしたりして楽しいひと時を過ごしましょう。
今年こそその思いが叶うように、切に願っております。



小規模特別養護老人ホーム　第三やはぎ苑
施設長　　西井　美恵子

今年も満開の桜を、近所の神社まで見に行きました。
皆さん、とても喜んで、頭にたくさんの花びらを乗せて嬉しそうな笑顔を見せる人、落ちた花を大切に持ち帰る人、色々な思いがあるのでしょうね❣

みんな素敵な笑顔ですね……(*^-^*)

お知らせ

４月から介護職員に入職した
グェン・ティ・ハです。
宜しくお願いします。

乙川沿いの河津桜を見に行ってきました。五分咲きから六分咲き位でしたが、ソメイヨシノより濃いピンクの花で、この日はお天気が良かったので、青い空に映えとてもきれいでした。

やはぎ苑の敷地内に、新しいお仲間が増えました。さて、何処にいるでしょうか？天気のいい日に苑内を散歩して探してみてはいかがでしょうか。

「ありがとうございました」

ご寄付・ご寄贈（令和五年一月～令和五年三月）

＊産土・長瀬の会　様

編集後記

5月8日から、新型コロナウイルスの分類が「2類相当」から「5類」に移行すると発表がありました。

移行後は、診察は発熱外来から一般医療機関になり、行動制限なし、入院措置・勧告なし、マスク着用は屋内外共に不要・個人の判断となります。また、医療費やワクチン接種費用は当面公費となります。これが自己負担に変わると、治療を受けない受診控えが増え、ワクチン接種は接種率が低下するとみられます。そのため、感染の広がりや重症化する可能性があると言われています。

分類が変わっても、職員一人一人がコロナウイルスを施設内に持ち込まないよう、感染対策をしっかり行っていきたいと思います。